わが町にも歴史あり
知られざる大阪

524

東高野街道⑳　大東市

プロレスで野崎熱く

前回の楠木正行の墓所から、JR四条畷駅へ出て、1駅南の野崎駅へ。四条畷駅は、駅名は四条畷ながら、所在地は大東市。野崎駅も大東市だ。

野崎といえば野崎参り。野崎観音（慈眼寺）への参詣で、5月1～8日の期間に約20万人の人出があり、野崎駅からの参道には露店も並んで、それはにぎやかだ。東高野街道は野崎観音のすぐ下を通っているから、街道を使って参詣する人も多かったことだろう。

野崎参りの起源は、江戸時代の元禄期からという。正しくは「無縁経法要」といい、この世の有縁無縁のすべてのものに感謝のお経をささげる行事のこと。大坂市中から日帰りできる距離で、行楽気分で出かける人が多かったようだ。

当時は船で行くルートがあって、楽に行けたのも人気だった。通常は天満橋のたもとの八軒家浜から、今の住道駅付近まで寝屋川を上った。この船上の客と、土手を歩く参詣客との口げんかが〝名物〟だった。そんな様子を活写しているのが、上方落語の「野崎詣り」だ。

ふたりの若い者が徳庵から船に乗る。普段は肥料を運ぶ船だが、この日ばかりは緋毛氈を敷いて客を乗せている。「陸を見ィ。ぎょうさん歩いてくるやつがあるやろ。あれつかまえてけんかするねん。これに勝ったら一年中の運がええっちゅうねん」と相棒にそそのかされて、調子乗りが歩いてるのをつかまえてはからかうが、あべこべにやりこめられ……。

野崎駅前の朱塗りの小さな橋を渡って、野崎参道商店街を歩く。正面の飯盛山に観音さまがおわす。商店街の中ほどに「野崎プロレス」ののぼりがはためく事務所がある。はて、野崎プロレスとはなんぞや？

後日、野崎プロレスを発案した実行委員長の山田修司さん(47)を事務所に訪ねた。野崎プロレスは、その名の通りのプロレス興行で、2014年から野崎参りさなかの5月4日に催している。

なんでプロレスを？と尋ねると「僕より下の世代は、野崎参りを知らないんですよ。せっかくの財産なのに……」と山田さん。野崎プロレスの影響で、東大阪で「布施プロレス」を催して山田さんとタッグを組む安原武男さん(44)は「隣の市ですけど、野崎という地名を知りませんでした」と言う。そないに知名度、低いんや。

「人口は減り続ける。活性化のためにイベントを呼んでも、あとには商店街に残らない。それなら地元発で楽しいことをしよう」。そうしてプロレスを――というのだが、ここで重ねて問う。なんでプロレス？

幼少期から好きだったのだが、それだけではないという。「役割ですね」と山田さん。プロレスにはシナリオがあり、ええもんとわるもんが戦う。「わるもんがおるから正義が光るんです」。なるほど、それで？

「40代になって、俺には俺の役があるんちゃうかなと」

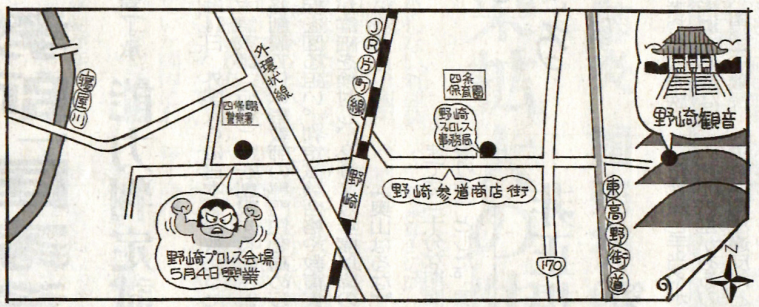
人生も半ばに差し掛かり、日の当たる場所ばかりを歩けるもんでもない。裏方に徹して老若男女に楽しんでもらい、野崎の名を知らしめるのを〝役割〟と思い定めれば、プロレスがピッタリだったということか。

各プロレス団体に呼びかけて、プロレスラー十数人に参加してもらう。当初は、現在、全日本プロレスの人気レスラー、ゼウス選手が出場してくれたし、今はメキシコで修業したプロレス界のレジェンド、ツバサ選手が参戦。なにより、地元キャラのダイナマイト野崎選手と、布施プロレスのふセロボくんの対戦が呼び物なんだとか。

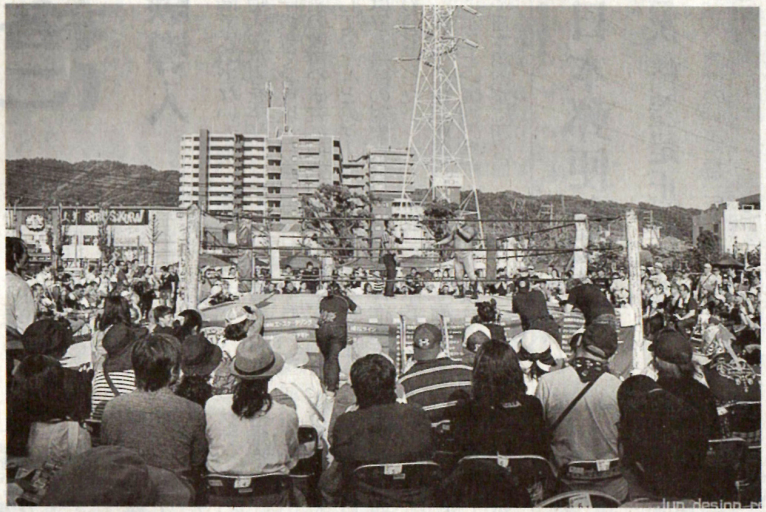
いまや、幅広い年齢層のお客さんが3000人以上も詰めかける人気イベントに。山田さんは「いつになったら黒字になるんや」とぼやきながらも、「面白いことをしたら、人は来てくれるんや」との思いを強めている。安原さんも「プロレスの魅力は非日常。それが手の届く所で開催されて、たくさんの人が笑顔になる。ほかにないです」という。

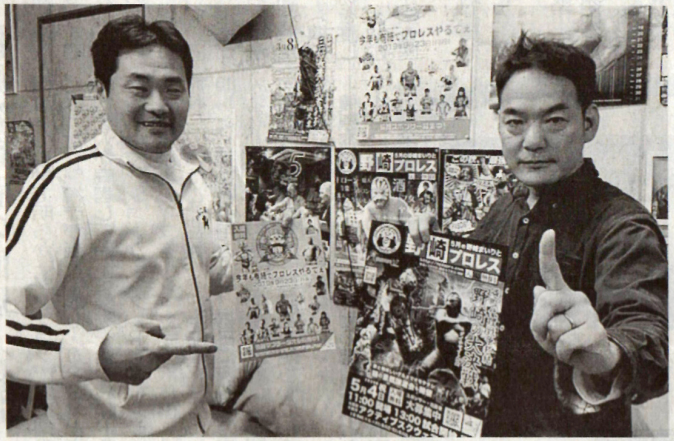
野崎プロレスは今年も5月4日に開催される。いざ野崎へ！　【松井宏員】

＝次回は29日掲載予定ですが、紙面事情で急に変更することがあります。



イラストマップ・高宮信一さん





上昨年の野崎プロレスの模様。大勢の観客が詰めかけた下野崎プロレスを主催する山田さん（右）と、タッグを組む安原さん＝大東市野崎1で

ＪＲ野崎駅から、正面の飯盛山にある野崎観音へと続く野崎参道商店街　＝大東市野崎１で

メモ

野崎プロレス　今年で7回目。5月4日（祝）、大東市深野3のアクティブ・スクウェア・大東（JR片町線・野崎駅から徒歩5分、四條畷警察署隣）。11時開場、13時試合開始。入場無料（一部有料席あり）。飲食などの屋台も出る。ホームページ（http://nozapro.com）。問い合わせは山田さん（080・5350・1380）。